

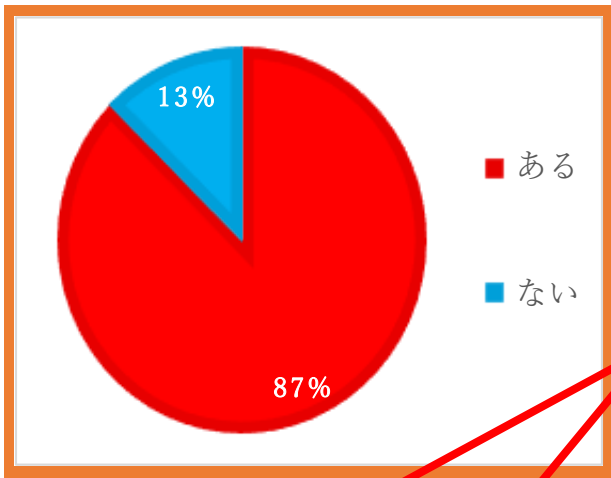
新型コロナウイルスに対するアンケート調査結果①！！

「新型コロナウイルス」の感染拡大に伴い、全国に「緊急事態宣言」が発出されました。このような中でも鉄道業に従事する私たちは、指定公共機関の社員として、公共交通を維持する使命を担っています。

現在、それぞれの組合員が「感染しない・させない」ために、最大限の警戒感を持って工夫しながら業務を遂行していますが、誰も経験したことがない状況により日を増すにつれて「どこで感染してもおかしくない」という恐怖と、「今後の賃金はどうなるのか」「雇用は大丈夫か」など先の見えない状況への不安の声が増えている現実です。そのためJR東労組秋田地本は、「新型コロナウイルス」に対する職場の声を正確に掴み具体的な議論を展開していきます。今重要なことは「出来ることを最大限行い、感染リスクを減らすこと」です。

1週間の短い期間での取り組みにも関わらず、297名の組合員から回答をいただき、その『声』が「安心して働ける環境づくり」に繋がっていきます。以下、アンケートの調査結果と意見を載せますので、職場での議論にも活用してください。共に危機を乗り越えていきましょう！

問1. コロナウイルス感染拡大に対し、業務上抱えている不安はありますか？



業務中は常に不安が付きまわっている現状です。また、業務が滞るなど今後の業務にも不安が多いことが出されました。

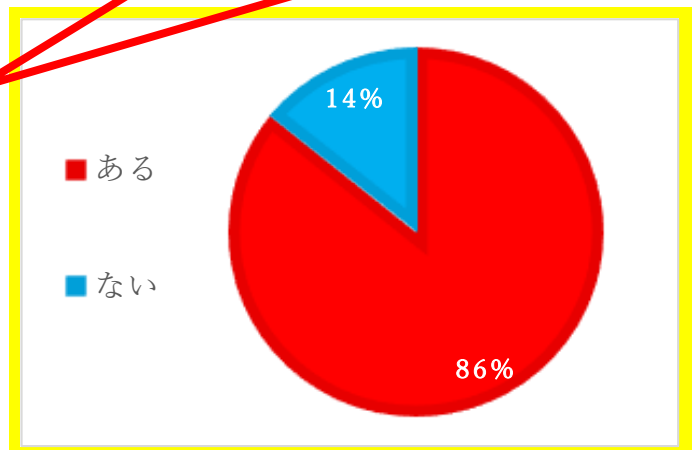
～主な意見～

- 乗務員は常に感染のリスクがあり、マスクしか身を守るものがない。
- 不特定多数のお客さまに接するためどこで感染するかわからない。
- 車内改札・集札・現金の受け渡しなど直接手でのやり取りになり、アイポッシュも使うが感染対策にどこまで繋がるか不安は拭いきれない。
- マスクが手に入りにくいのは理解するが、「1乗務1枚」の配布ではなく「1日1枚」にすることでリスクを少しでも減らしたい。
- 車掌は集札や現金を扱いながらも手笛を吹くため電子式にする等の対応が必要。
- 清掃関係の作業でゴミ収集の際使用済みのマスクやティッシュなどで感染のリスクがある。
- どこかにウイルスがいるのではと過敏になり、車両設備の消毒等気になってしまう。どこまで対策をすれば不安解消になるのか見えない。
- 検査業務が滞ること。年度内の業務が一気に押し寄せないか。

問2. 自身が感染してしまった場合の不安はありますか？

- 休日の外出や帰省を自粛し、感染した場合は業務中の可能性が非常に高く年休や病欠以外の緊急対策が必要。
- 自宅には高齢者もいるため、家族への感染に繋がらないか心配。
- 一人暮らしのため、感染した場合や疑いの場合一人でやらなければいけないため不安がある。
- 寮に入っているが、感染した場合は軽症で自宅待機となればどこにいるべきなのか。
- 地域からの差別や偏見が出てしまうのではという不安・恐怖。
- 普通の風邪の症状でも今は休むしかない。検査もすぐ受けれるわけでもなく、年休を多く使用することになるので年間のスケジュールが立たない。
- 業務が他の人に回り勤務がきつくならないか心配。
- 感染後職場復帰する際受け入れられるのか心配。

家族への感染拡大させたくない意見が多いことや年休の使用などに不安を抱えています。



結果②に続く →